

授業科目名	ジョブ・スキル	単位数	2
担当教員名	菊地マリコ	担当形態	単独
実務内容 (実務家教員の場合)	ラジオパーソナリティー経験のある教員が、ラジオ制作の視点から、聞かせる会話の奥深さやコミュニケーションの面白さについて切り込んでいく体験型授業。		
「学位授与の方針」との関係 本学ディプロマポリシーA～F			
授業の到達目標及びテーマ (1) 何気ない会話のテーマ、構築、コミュニケーション、発声等の奥深さに興味を持つ。 (2) テーマを設定し、それらを具体化し企画書やトークの作成能力を身につける。 (3) インタビューや会話のキャッチボールを通して、他者から必要な情報を引き出す能力をつける。 (4) 文章及び、企画の構成力、表現技術を身につける。 (5) 人前で喋るプレゼンテーション能力を養う。			
授業の概要 生涯を通して関わりの深い「コミュニケーション」について多角的に切り込み、自分なりの気づきや大切さを学ぶ。 レポート学修では、雑談の具体的ノウハウを学び、課題を通じて「読み手を意識した文字上のプレゼンテーション」「自身の会話」について向き合う。 また、スクーリングでは、ラジオや喋ることについての概要を学び、対話形式のラジオ模擬番組を作成する。 グループワークで打ち合わせを重ね、企画書を作成し、台本の作成、ラジオ模擬番組を通して、プレゼンテーションを実施する。授業は主にアクティブラーニングの手法を用いて実施する。			

授業計画

第1回：話す技術

第2回：聞く技術

第3回：説得力のある会話術

第4回：臨機応変な会話術

第5回：コミュニケーション・自己紹介

第6回：滑舌の練習

第7回：ナレーション読み

第8回：ラジオ番組概要

第9回：番組企画書作成

第10回：番組台本作成

第11回：リハーサル、タイム計測

第12回：発表

第13回：分析、考察

第14回：省察

第15回：展望

定期試験

スクーリングでの学修内容

第5回～第13回の内容をスクーリングにて取り上げる。

尚、授業は主にアクティブラーニングの手法を用いて実施する。

（第1回～第4回のテキストから得た知識、第5回～第7回のスクーリングでの実践を通して、喋りの奥深さを学ぶ。）

（第8回～第11回は企画制作を体験し、学んできたことを第11回以降で生かし、フィードバックする。）

教科書

安田正（2016）『超一流の雑談力「超・実践編」』文響社ISBN 978-4-905073-55-0

参考文献

各自で「会話の奥深さ」に関して意識しながら、専門書や資料、メディア等（ラジオ番組・テレビ番組・インターネット・SNS・イベントMC）を選択し、向き合い、熟考すること。

学生に対する評価

スクーリング評価（25%）、レポート評価（25%）、科目修得試験（50%）を総合して評価する。